CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

東医大誌　68(2)：245-246，2010

プ　ラ　ザ

第 29 回東京医科大学医科学フォーラム
The 29th Medical Science Forum（MSF）

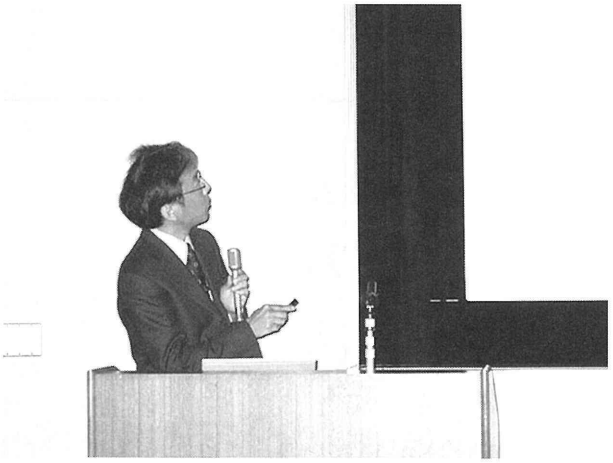
大　平　達　夫[1)]　　宮　澤　啓　介[2)]
Tatsuo OHIRA[1)], Keisuke MIYAZAWA[2)]

オーガナイザー
[1)]東京医科大学外科学第一講座
[2)]東京医科大学生化学講座

2010 年 1 月 29 日（金）午後 6 時より東京医科大学病院 6 階 臨床講堂にて、第 29 回東京医科大学医科学フォーラムが開催された。今回は、「糖鎖研究」をテーマとして本学からは東京医科大学外科学第一講座の野村将春講師に「肺癌と糖鎖研究」と題してご講演いただいた。その後、近畿大学ゲノム生化学教室の西尾和人教授から「糖鎖研究の最新知見」と題して糖鎖研究の最新の話題を広い分野でご講演いただいた。

糖鎖は細胞のアンテナやセンサーのような働きをしており、糖鎖に異常が生じると身体に様々な機能低下が起こり、老化や病気を引き起こす原因となると言われている。日本での糖鎖研究は 2002 年頃から産学協同で盛んに行われはじめた。アメリカでは米国立保険研究所（NIH）が有名ですが、糖鎖研究は日本が世界トップレベルと言われており、経済産業省は 3 年間で 30 億円近い予算を組んで、「ガンや免疫に関する糖鎖の遺伝子を探索する」研究に取り組んでいる。また、厚生労働省は 2006 年から「糖鎖の解明」をすると発表しており、糖鎖は 100 種類以上の病気に関与しているとしている。糖鎖は、体を構成する約 60 兆個の細胞が、糖鎖と糖鎖が触れ合うことでお互いの情報を交換し合うと言った、「細胞間コミニケーション」「共通言語」の働きをしていると言われている。また細胞間だけではなく、細胞に近づくあらゆるもの、たとえばバクテリアやウイルス、化学物質、ホルモン、各種栄養素、毒素などを瞬時に見分けて、排除するか、または取り入れるかを判断していると言われている。

野村先生には、産業総合研究所との共同研究で行っている、肺癌のバイオマーカー研究としての成果について発表していただいた。その後、西尾教授に肺癌領域のみでなく広い分野での近畿大学での研究成果について発表していただいた。西尾教授は、近畿大学内のみでなく、日本各地の臨床系の教室との共同研究を積極的に進めており、基礎と臨床の共同研究の推進を進めるために立ち上げられた本研究フォーラムの見本になると考え、お招きした。

糖鎖研究は、さまざまな疾患に関与していると言われており、癌領域のみでなく様々な領域で関与すると考えられ、本フォーラムを発端に本学で糖鎖研究が盛んになることを期待している。フォーラムの終了後は、大学病院 6 階カフェテラスで懇親会が行われた。

（文責　大平達夫）